

ター保健師 小山田 清香氏による演題「誰もが安心して暮らせる地域へ～那須町での活動とおして～」の3名のパネリストのお話がありました。質疑も活発で、時間を延長しての閉演となりました。

第14回青森支部学術集会

学術集会会長：青森県立中央病院整形外科部長 伊藤淳二



会場風景

2015年11月7日(土)に青森市のホテルクラウンパレス青森にて標記学術集会を開催した。テーマは「地域連携」とし、一般演題26題、

ランチョンセミナー1題、教育研修講演1題、特別講演2題(「地域医療はどこへ行く」高松市病院事業管理者 塩谷泰一先生、「ITを用いた地域連携の構築」鶴岡市医師会会長 三原一郎先生)と、かなり充実した内容でした。テーマに沿った特別講演は、青森県では必要不可欠な地域医療の今後と地域連携について大変有意義なお話がお聞きでき、今後の地域医療に役立てることが期待できる内容であった。参加者は232名で、1会場で行ったためかなりタイトなスケジュールでしたが、演者・座長の協力で9時から17時まで新幹線の時刻表なみの正確さで終えることができました。

開催・運営にご協力いただいた皆様方に心より感謝申し上げます。

第14回山口県支部学術集会

学術集会会長：地域医療支援病院オープンシステム 徳山医師会病院院長 森松光紀

第14回山口県支部学術集会を2015年11月7日(土)周南市文化会館で開催しました。テーマは「高齢者医療と終末期のあり方を考える」ですが、新しい試みとして学会会員のみならず市民教育も考え、市民公開講座「家族が認知症になった時、自宅で介護していくために必要なこと」川井元晴先生(山口大学神経内科准教授)を開催しました。また学術集会の特別講演「リビング・ウィルのあり方」井形昭弘先生(日本尊厳死協会名誉会長)およびシンポジウム「みんなで考えよう終末期医療・高齢者医療」も市民に公開しました(シンポジスト7名は、この問題に関係する医師、行政官、在宅支援部長、家族会など)。そのほか一般演題10題、ポスター22題、クリティカルパス発表4題があり、医師、看護師、薬

剤師、リハビリテーション技師、在宅支援部、事務部からの発表でした。参加者は448名(学会会員212名、看護専門学校生120名、一般市民116名)で、学会会員のみならず市民、学生にとっても裨益するところ大でした。

第11回愛知県支部学術集会

学術集会会長：安城更生病院院長 浦田士郎



会場風景

2015年11月14日(土)に第11回日本医療マネジメント学会愛知県支部学術集会を開催し、348名の方々にご参加い

ただきました。

今回は「人財確保と人財育成」をテーマとし、特別講演に宇宙航空研究開発機構(JAXA)の山口孝夫氏に「宇宙飛行士流のチームマネジメント～生命を預かる人になる」を、またランチョンセミナーにANAビジネスソリューション株式会社の新海千恵氏に「リーダーの意識と行動が変われば職場が変わる」と題してご講演いただきました。病院組織の成長は、人材の成長と密接不可分です。医療以上に特別な厳しさを求められる世界で活躍されている両氏のご講演から、病院組織を支える貴重な「人財」を確保し育成してゆくための糸口が得られたことと思われま

す。また一般演題では、人財育成を含め、医療安全管理や地域連携推進など興味ある9題の発表があり、会場全体で熱のこもった意見交換が展開されました。

最後に、本学術集会開催にあたり準備と運営にご支援とご尽力を頂きました全ての皆様篤く御礼申し上げます。

第6回愛媛県支部学術集会

学術集会会長：社会医療法人石川記念会HITO病院 病院長 石川賀代



会場風景

2015年11月15日(日)9:40～17:00に社会医療法人石川記念会HITO病院大会議室と11階レストランにて第6回日本医